

## ますます意義ある『稲穂』を期して 佐々木康夫

(高15回 在京飯田高校同窓会会長)

令和元年の記念すべき年、『稲穂』第16号を発刊することができました。

さて、この1年間、在京飯田高校同窓会(在京同窓会)では、複数の方々のご逝去の報に接しました。心からお悔やみ申しあげます。

ご逝去された方々の一人ひとりのお名前を申しあげることにはできませんが、敢えてひとり挙げさせていただきます。その方は、『稲穂』の初代編集長の金田明夫さん(高7回)でございます。今日、『稲穂』が在京同窓会で大いに喜ばれ、また、在京同窓会以外の方からも多く賞賛されておりますのも、まさに金田初代編集長の、初期段階における多大なご尽力あつてのものであり、厚く感謝いたしている次第でございます。

因みに、編集長は、以来、第2代、第3代と受け継がれ、本号における編集長は第4代の下平紀代子さん(高32回)です。下平編集長のもと、原誠さん(高23回)、茂木立みどりさん(高36回)の両副編集長ならびに編集委員の新体制により、ここに本号を、皆さんのお手元にお届けすることができたものでございます。

かつて、私は『稲穂』で同窓会活動に参加する意義について述べております。即ち、在京同窓生にとって、飯田・下伊那は「心の故郷」であり、この地に在る飯田高校は自己形成の場であった。そして、本校で学び培ったその気質等の形成過程は、年代を超えて共通したものであり、

それを糧にして相互に語り合う時「自分を見直すよい機会」になっているのだと。

そうした時、創刊時の目的であった「感動を語ろう、時代の心を伝えよう」とした『稲穂』が、同窓生達にとって、年齢、職業を超え、相互に語り合え、感動の交歓ができる場になっております。それ故に『稲穂』は在京同窓会において大いに意義あるものになっております。その為にも、引き続き、ますます意義ある『稲穂』を期するところでございます。

かかる時、『稲穂』の運営は「自主活動」であり、唯一、広告料が頼りになっております。しかしながら広告にも限界があり、そこで「協賛金方式」、在京同窓生以外に「サポーター制度」を採用入れました。お陰を持ちまして多くのご協力をいただきました。この場をお借りして、ご協力いただきました方々に対し、厚く御礼申しあげます。

一方、在京同窓会の互助精神での「法律相談室」、「パソコン操作相談室」は円滑に運営できており、「囲碁の会」「飯田ゆかりの地を歩こう会」はますます活発になっております。これ等は、充実化した在京同窓会のホームページで、ご覧いただければ幸いです。

何はともあれ、在京同窓会は同窓生一人ひとりのものがございます。従いまして、同窓生の皆様によって、より良い同窓会になりますよう、引き続き宜しくお願い申し上げます!!



●ささき・やすお 飯田市出身、早稲田大学第一法学部卒業。昭和電工勤務を経て、現ケミカルフォース会長。趣味は陶芸、写真。東京都江戸川区在住。在京飯田高校同窓会第12代会長。